

2006年5月25日

# 2006年3月期 決算説明会

東京エレクトロン デバイス株式会社

## 2006年3月期 業績

(単位:百万円)

	2005年3月期		2006年3月期		増減率 (%)
	単 体	百分比%	連 結	百分比%	
売上高	88,079	100.0	88,290	100.0	0.2
売上総利益	11,666	13.2	11,516	13.0	1.3
営業利益	3,106	3.5	3,100	3.5	0.2
経常利益	2,820	3.2	2,630	3.0	6.7
当期純利益	1,916	2.2	1,537	1.7	19.8
1株当たり当期純利益	20,597.25円		16,525.74円		
R O E	14.2%		10.5%		
1株当たり年間配当金	5,500円		6,000円		
期末従業員数	562人		564人		

注) 2006年3月期より連結決算を開始しており、2005年3月期単体と2006年3月期連結で比較しております。

# 2006年3月期 資産

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 単 体	2006年3月期 連 結	増減額
現預金	879	798	80
受取手形・売掛金	21,217	17,017	4,200
たな卸資産	10,649	15,816	5,167
その他流動資産	764	1,116	352
有形固定資産	765	723	42
無形固定資産	243	169	73
投資その他の資産	1,468	1,446	22
資産計	35,988	37,088	1,100

注) 2006年3月期より連結決算を開始しており、2005年3月期単体と2006年3月期連結で比較しております。

# 2006年3月期 負債・資本

(単位:百万円)

科目	2005年3月期 単体	2006年3月期 連結	増減額
買掛金	8,585	12,253	3,668
短期借入金	5,000	1,698	3,301
その他流動負債	2,238	2,020	217
長期借入金	3,000	3,000	-
その他固定負債	2,948	2,955	7
負債計	21,772	21,928	156
資本金	2,495	2,495	
資本剰余金	2,054	2,054	
利益剰余金	9,665	10,605	940
為替換算調整勘定	-	4	4
資本計	14,216	15,160	944
負債・資本計	35,988	37,088	1,100

注) 2006年3月期より連結決算を開始しており、2005年3月期単体と2006年3月期連結で比較しております。

# 2006年3月期 キャッシュ・フロー

(単位:百万円)

	2005年3月期 単 体	2006年3月期 連 結	増減額
営業キャッシュ・フロー	4,291	3,930	360
投資キャッシュ・フロー	593	200	393
財務キャッシュ・フロー	3,457	3,867	410
現金等の増減額	240	128	369

注) 2006年3月期より連結決算を開始しており、2005年3月期単体と2006年3月期連結と比較しております。

## 2006年3月期 品目別売上高

(単位:百万円)

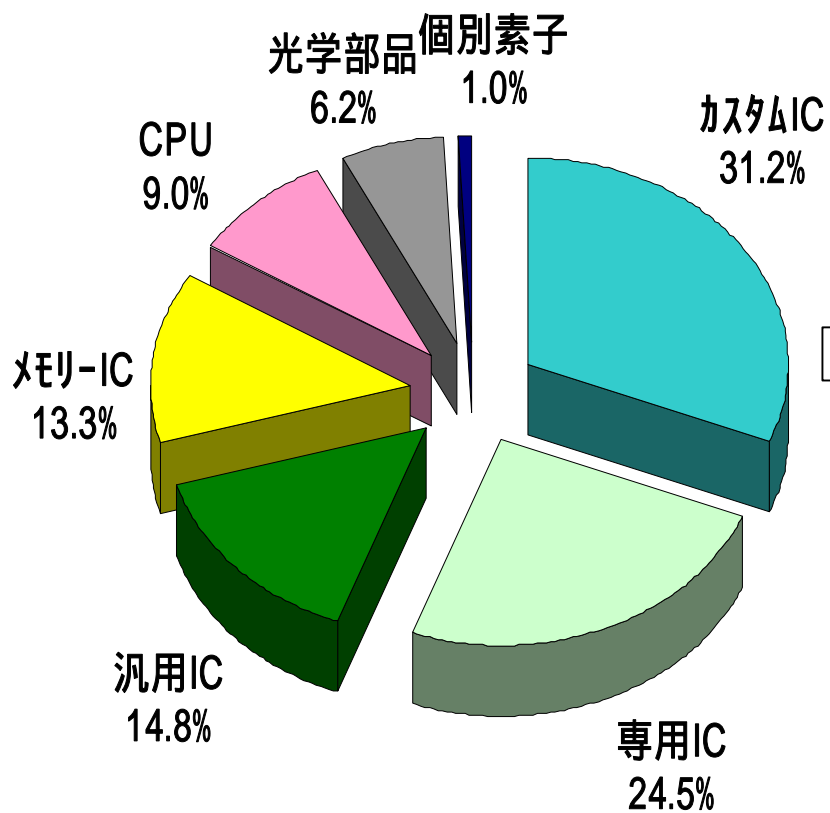
品目*	2005年3月期 単体		2006年3月期 連結		増減率 (%)
	売上高	構成比%	売上高	構成比%	
半導体製品	77,655	88.2	78,235	88.6	0.7
ボード製品	4,801	5.4	4,171	4.7	13.1
ソフトウェア	2,726	3.1	3,148	3.6	15.5
一般電子部品	2,897	3.3	2,734	3.1	5.6
合計	88,079	100.0	88,290	100.0	0.2

注)2006年3月期より連結決算を開始しており、2005年3月期単体と2006年3月期連結で比較しております。

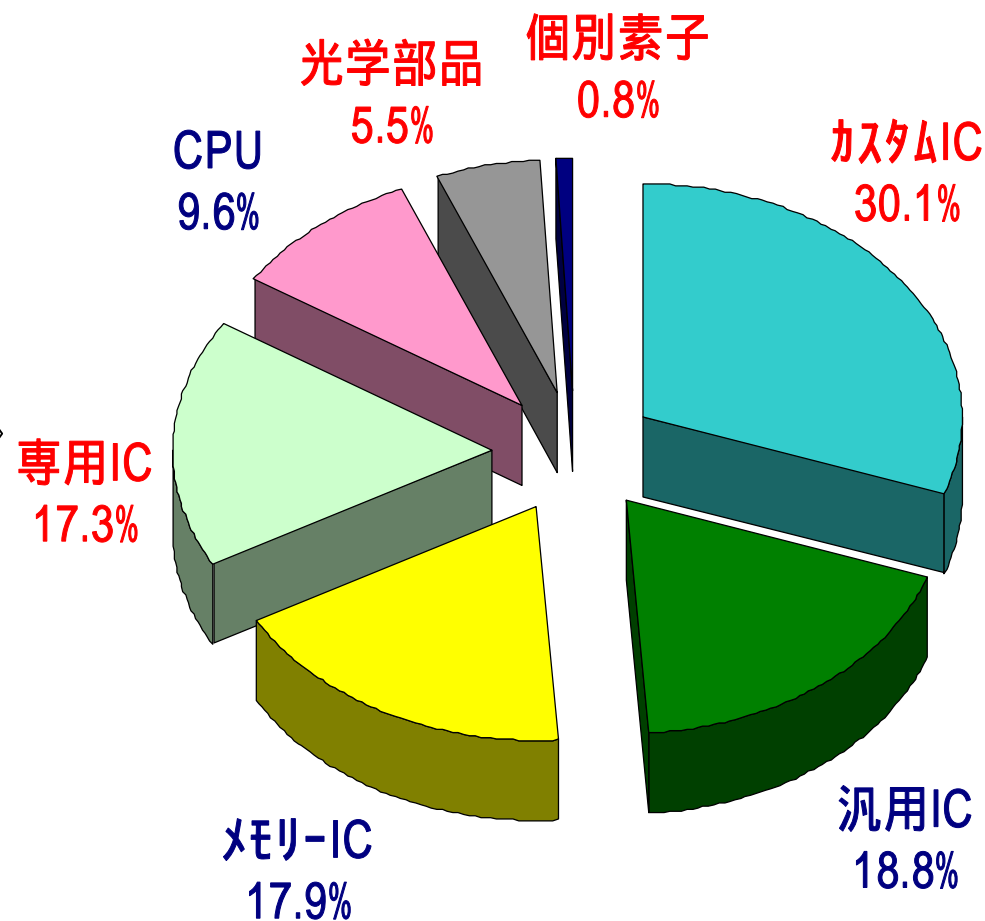
\* 各品目についての説明は、P.29～P.31をご参照ください。

# 2006年3月期 半導体製品売上構成比

< 2005年3月期 単体 >



< 2006年3月期 連結 >

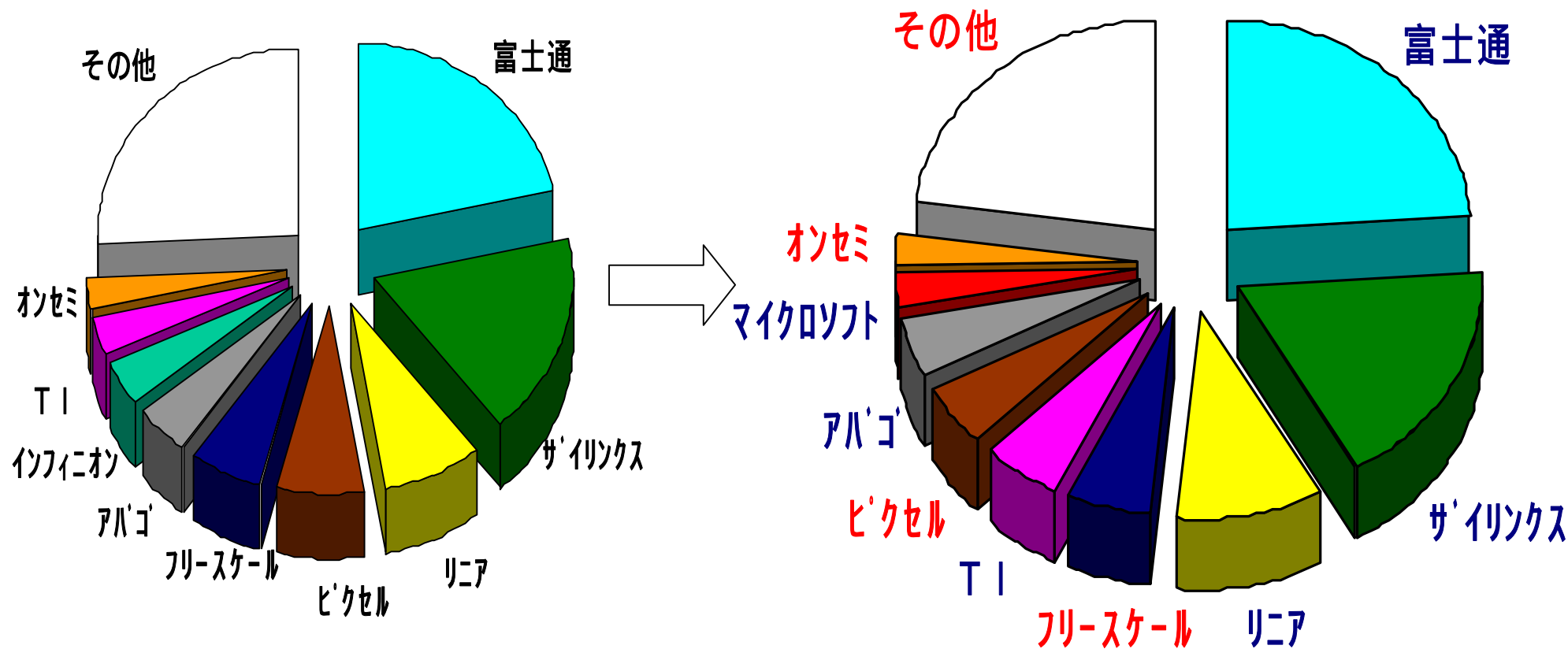


\* 品目についての説明は、P.29 P.30をご参照ください。

# 2006年3月期 商品別売上構成比

< 2005年3月期 単体 >

< 2006年3月期 連結 >



注) 社名は、敬称を省略し略称を使用させていただいております。

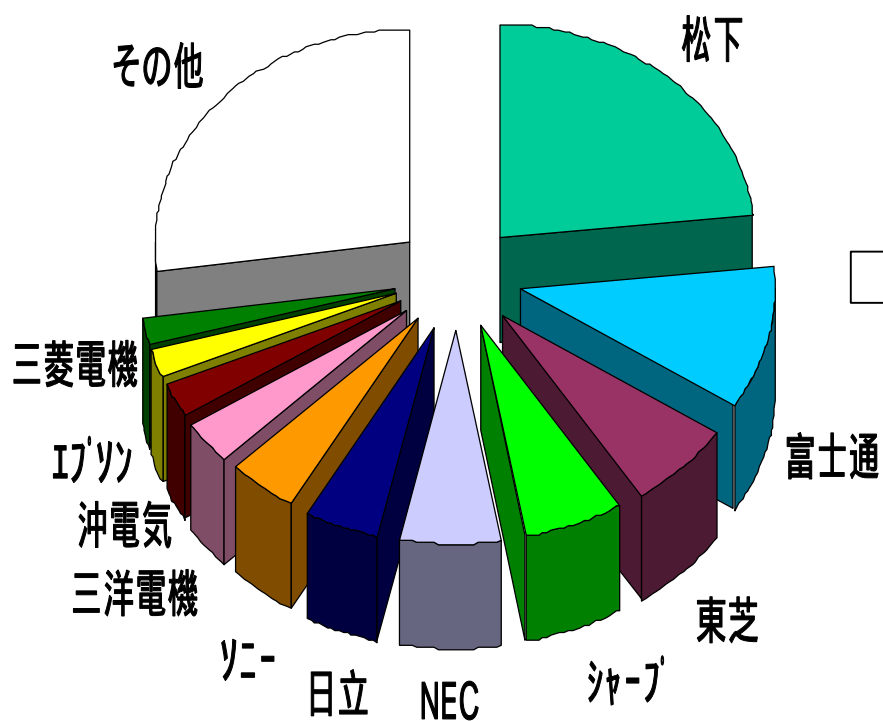


## 2006年3月期 主要商品別売上増減要因

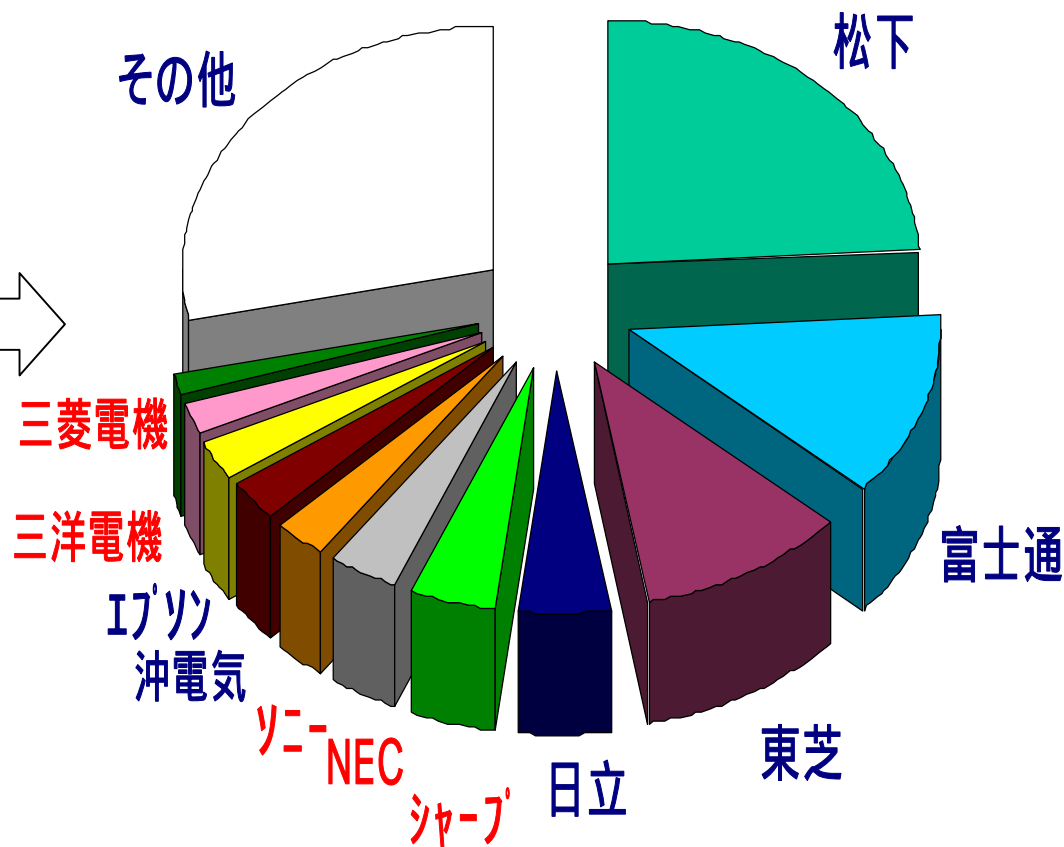
仕入先名	増減率	要 因
富士通(株)	11%	民生機器向けを中心に全般的に伸長
ザイリンクス社	3 %	上期減収も、下期産業機器向けを中心に回復
リニアテクノロジー社	23 %	全ての分野で伸長
フリースケール・セミコンダクタ社	7%	一部大口商談が終息したため減少
TI社	61%	商権拡大が寄与
ピクセルワークス社	28%	LCDプロジェクタの市場シェア減少
アバゴ・テクノロジー社	1%	上期減収も、下期産業機器向け回復
マイクロソフト社	14%	POS端末向け伸長
開発ビジネス	9%	ASIC設計受託減少

# 2006年3月期 顧客別売上構成比

< 2005年3月期 単体 >



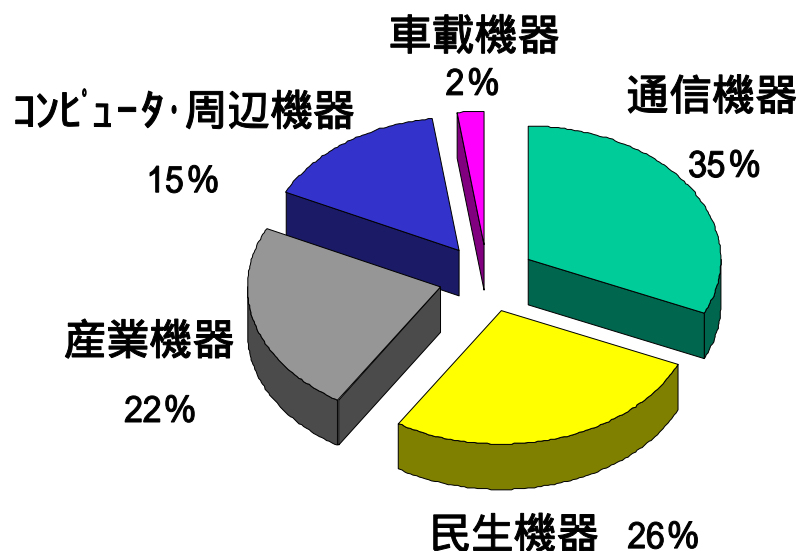
< 2006年3月期 連結 >



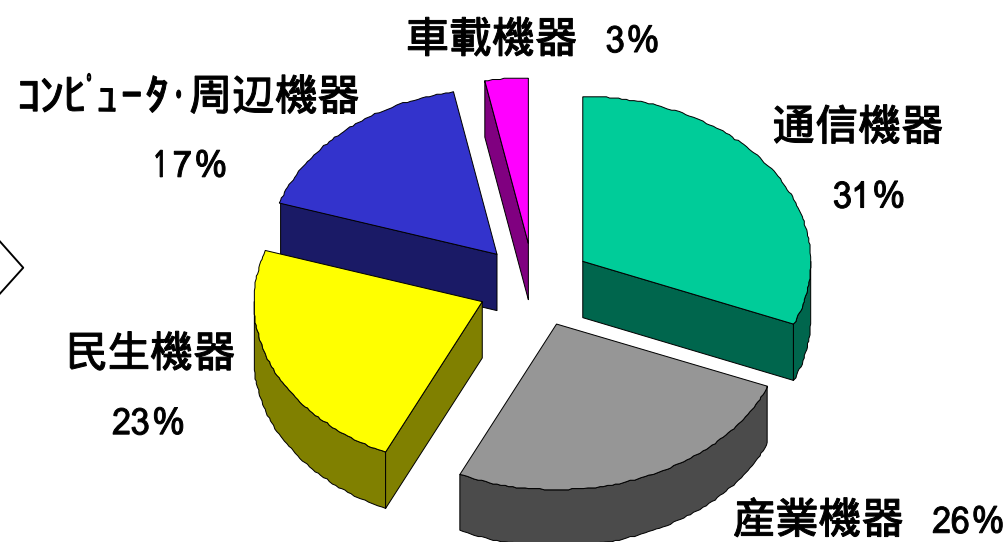
注) 社名は、敬称を省略し略称を使用させていただいております。

# 2006年3月期 用途別売上構成比

< 2005年3月期 単体 >



< 2006年3月期 連結 >



用途	主なアプリケーション
通信機器	ターミナルアダプタ、ケーブルモデム、携帯電話、ルーター、交換機、基地局
民生機器	デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、チューナー、液晶TV、プラズマTV、DVD
産業機器	セキュリティ監視機器、医療機器、放送機器、テスター、半導体製造装置
コンピュータ・周辺機器	プリンター、液晶プロジェクタ、POS、PC、ワークステーション
車載機器	カーナビゲーション、カーオーディオ

# 海外ビジネスについて

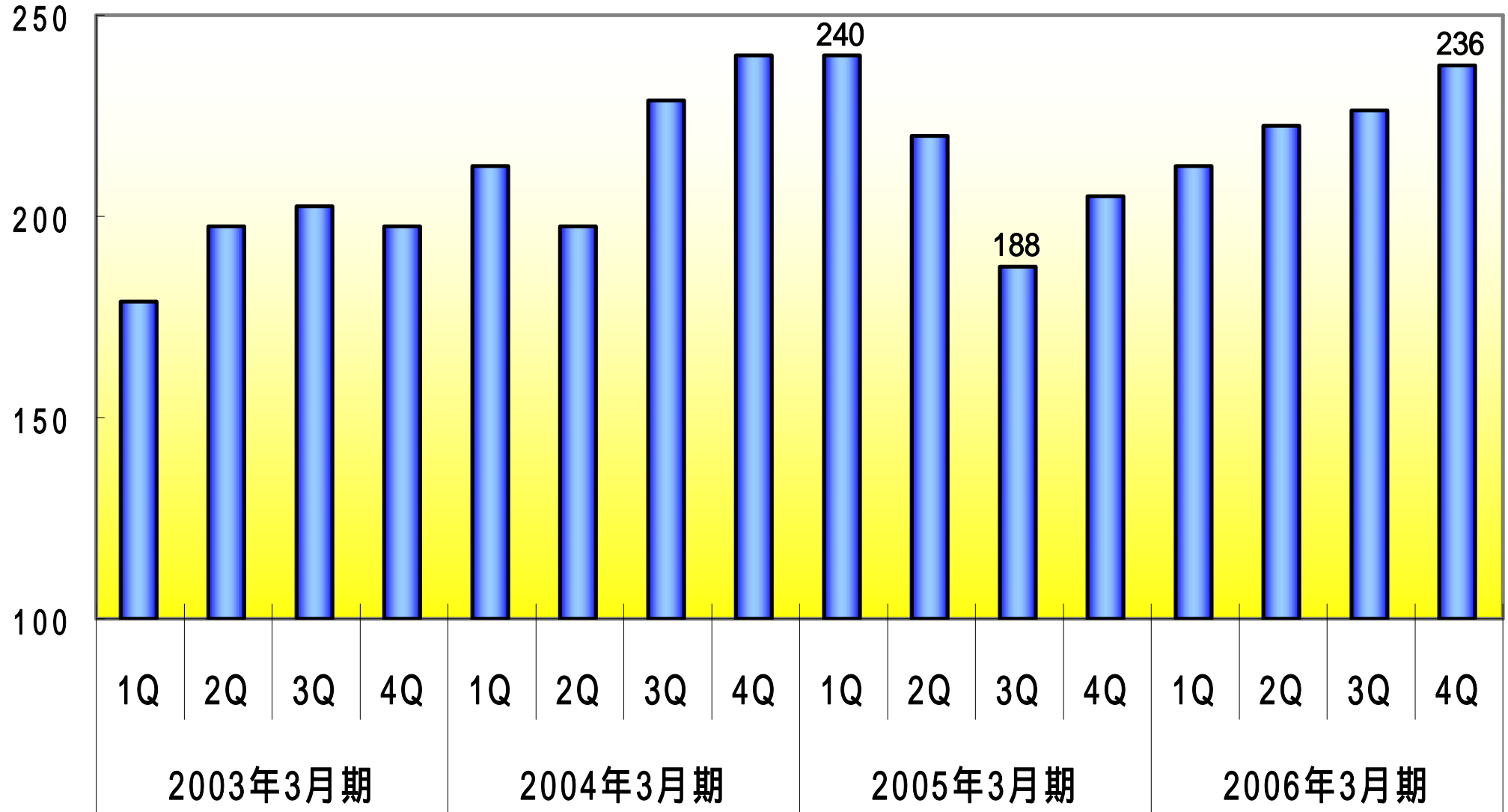
## 東京エレクトロン デバイス香港

	2006年3月期 実績	2007年3月期 計画
売上高	28億円	60億円

# 今期の業績予想について

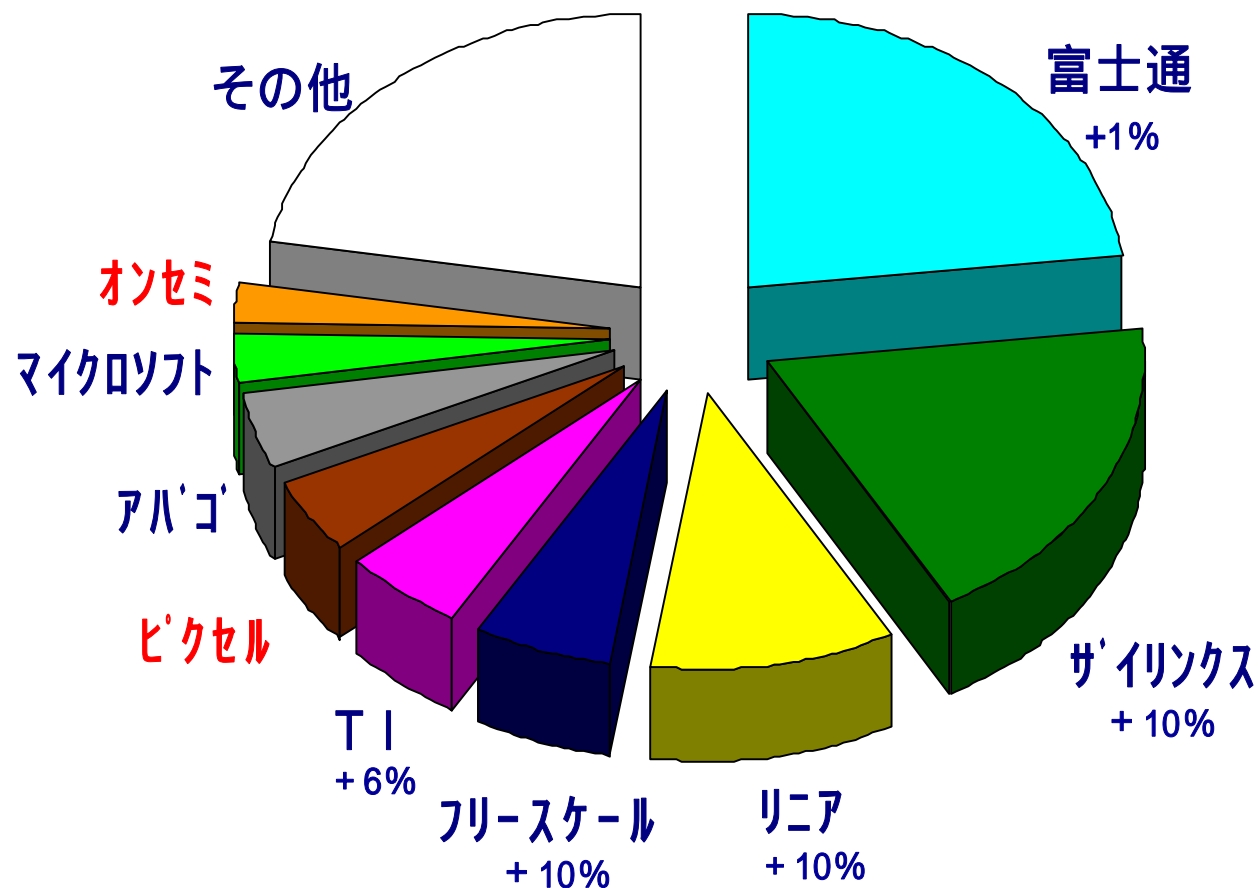
# 受注变化推移

(億円)



注) 2006年3月期より連結決算を開始しており、2006年3月期は、連結受注高を記載しています。

# 主要商品別 売上構成見込み



注) 上記見込みは、各仕入先の業績には連動いたしません。

数字は、前年比増減見込みを記載しております。

社名は、敬称を省略し略称を使用させていただいております。

## 2007年3月期 連結業績予想

(単位:百万円)

	上期予想	下期予想	通期予想	対前年 増減率(%)
売上高	45,000	55,500	100,500	13.8
経常利益	1,400	1,900	3,300	25.4
当期純利益	830	1,120	1,950	26.8
1株当たり配当金	3,000円	3,000円	6,000円	

下期から、東京エレクトロン(株)のコンピュータ・ネットワーク事業を承継。  
下期予想を修正(2006年5月23日付)いたしました。

\* 連結子会社:東京エレクトロン デバイス香港



# 中期の課題

## マーケティング

顧客要求の商品/ビジネスモデルへの対応

## 収益の確保

安定した利益成長の実現

## 収益率の向上

開発ビジネスの成長

# 今期の活動方針

## 商社ビジネス

- 新商品の導入
- 高付加価値商品の販売促進
- 産業機器分野への販売活動に注力

## 開発ビジネス

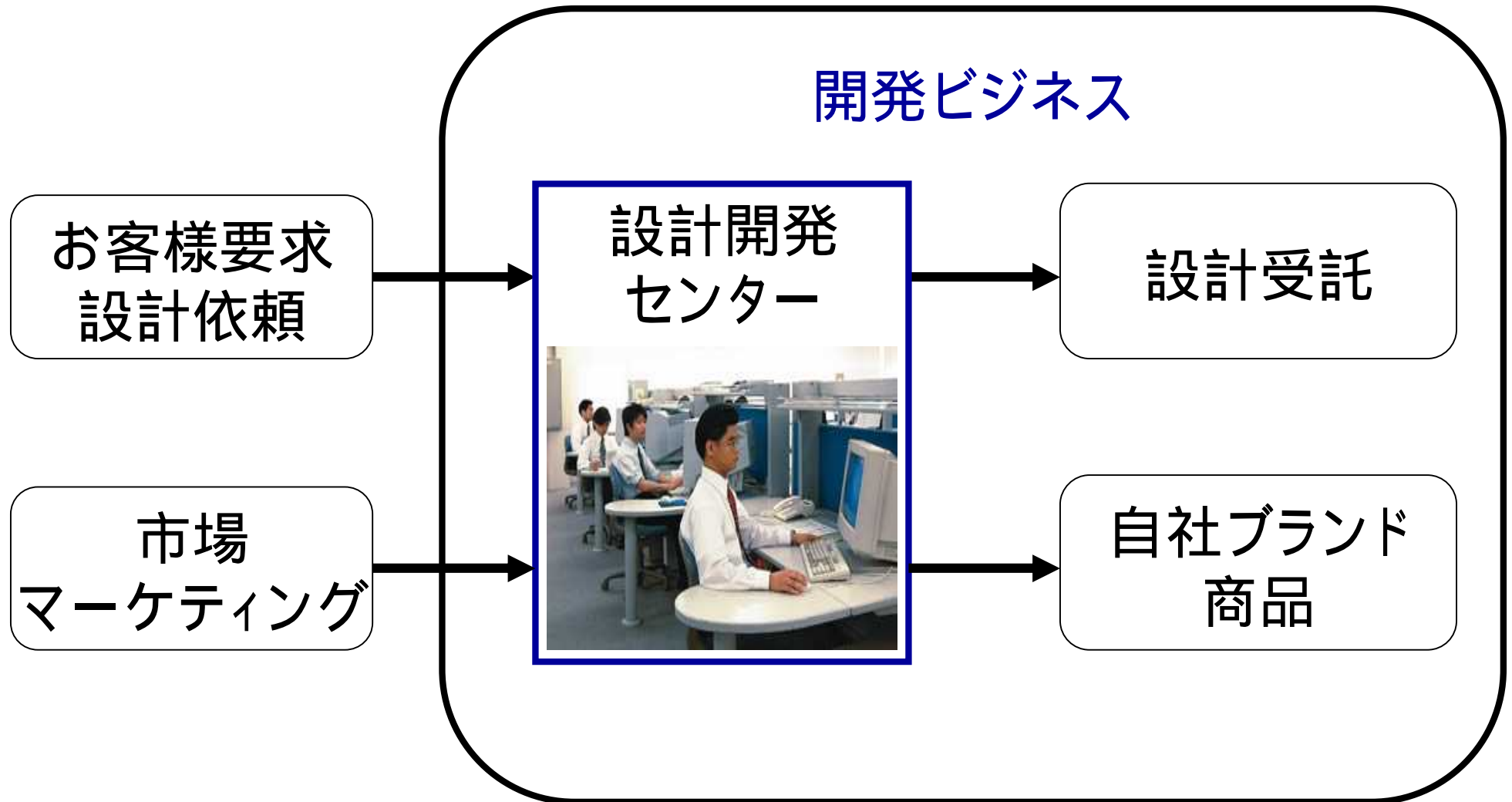
- FPGAを中心とした設計受託業務の受注拡大
- 産業機器向け自社ブランド商品の開発

# 開発ビジネスについて

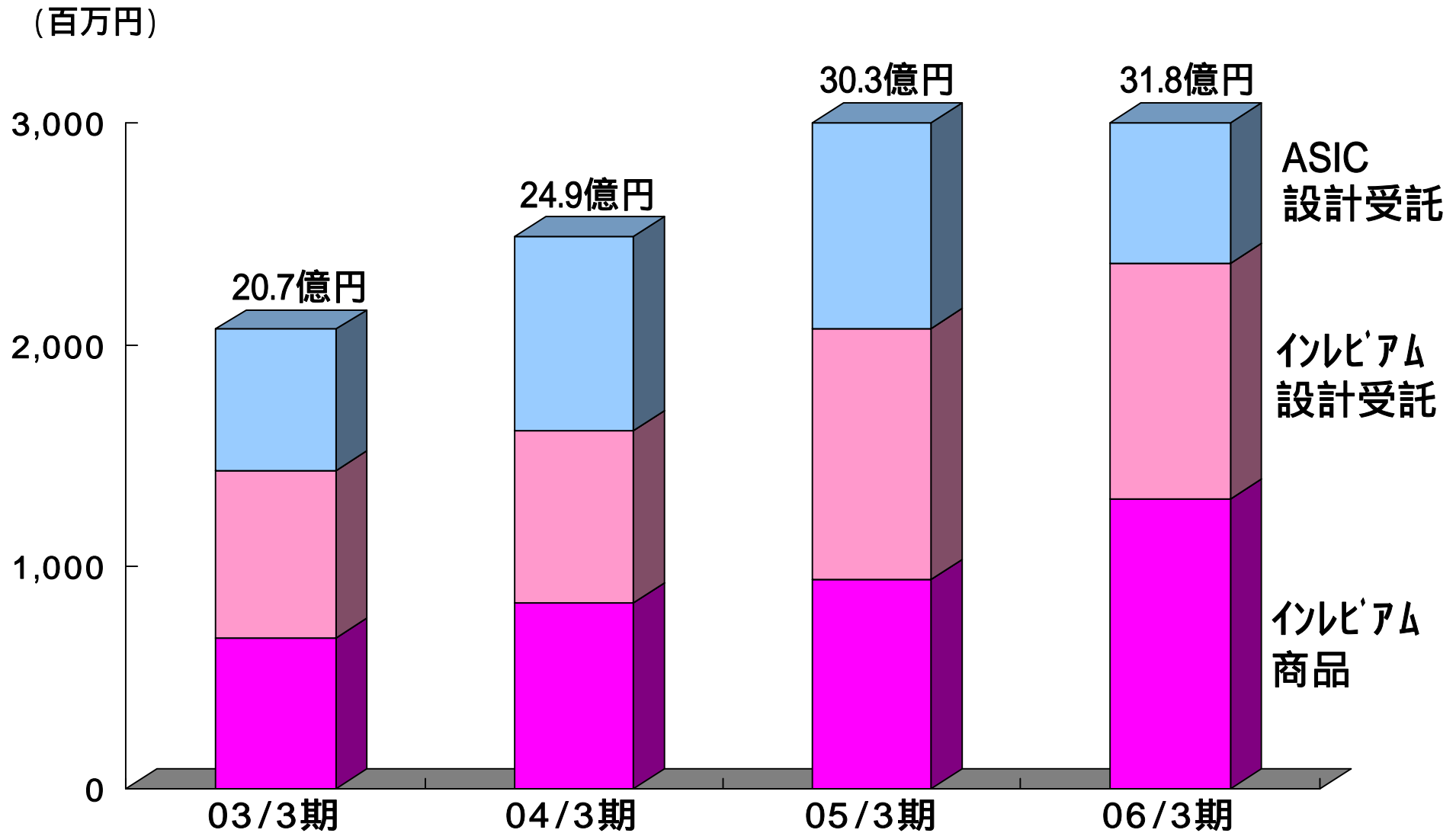
***inrevium***

(インレビウム)

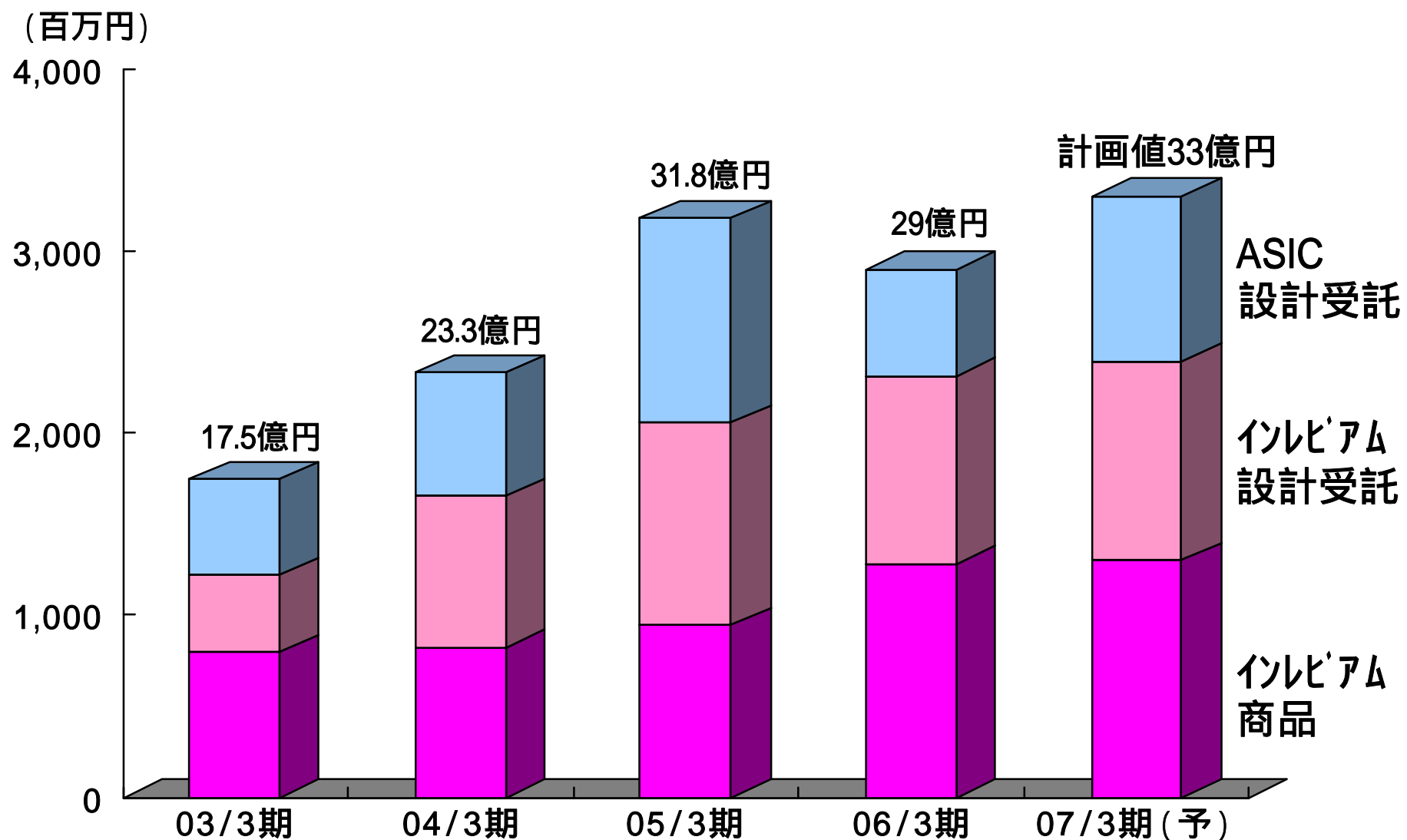
# 高付加価値事業への取組み



# 開発ビジネス 受注額推移



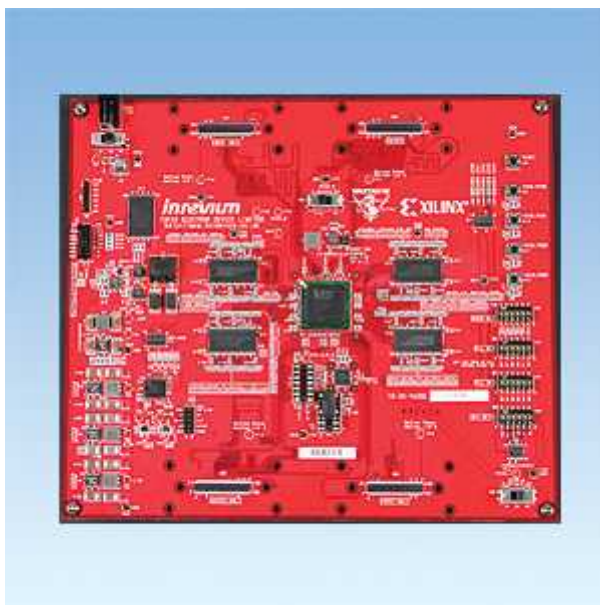
# 開発ビジネス 売上高推移・計画



## 取扱い商品との組合せ

### 映像処理評価ボード(2006年3月期 開発)

- ・ザイリンクス社との共同開発(2006年1月16日プレスリリース)
- ・ザイリンクス社の販売ネットワークを通じ全世界に発売予定



PDP、LCDなどの  
回路設計評価および参考用

## 産学官連携

### 3次元計測ソリューション(2006年3月期 開発)

産業技術総合研究所の技術移転ベンチャー企業である  
(株)アプライド・ビジョン・システムと連携



高精細、高精度の  
3次元画像処理システムに適用

当社開発

ステレオカメラボード



(株)アプライド・ビジョン・システム開発

3次元 距離計測ソフトウェア



## 保有技術活用

### SDカード コントローラ (2006年3月期 開発 3件)

- ・SDメモ리카ードの最新規格に対応したホストコントローラLSIおよびIP
- ・米国での販売も開始



デジタルカメラ、携帯電話、カーナビ、シリコンオーディオプレーヤーなどのメモ리카ードコントローラとして使用

## 今期の重点活動方針

### セキュリティ市場にフォーカスした商品開発

- ・高速JPEG圧縮/伸長(当社保有技術)商品の開発を強化
- ・ターゲットアプリケーション  
ドライブレコーダー、監視カメラなどの映像機器



# 東京エレクトロン(株) コンピュータ・ネットワーク事業の 承継(予定)について

## 1. 承継時期

2006年10月1日(予定)

## 2. 吸収分割に際し当社が発行する株式数

14,000株(予定)

東京エレクトロン(株)に割当交付

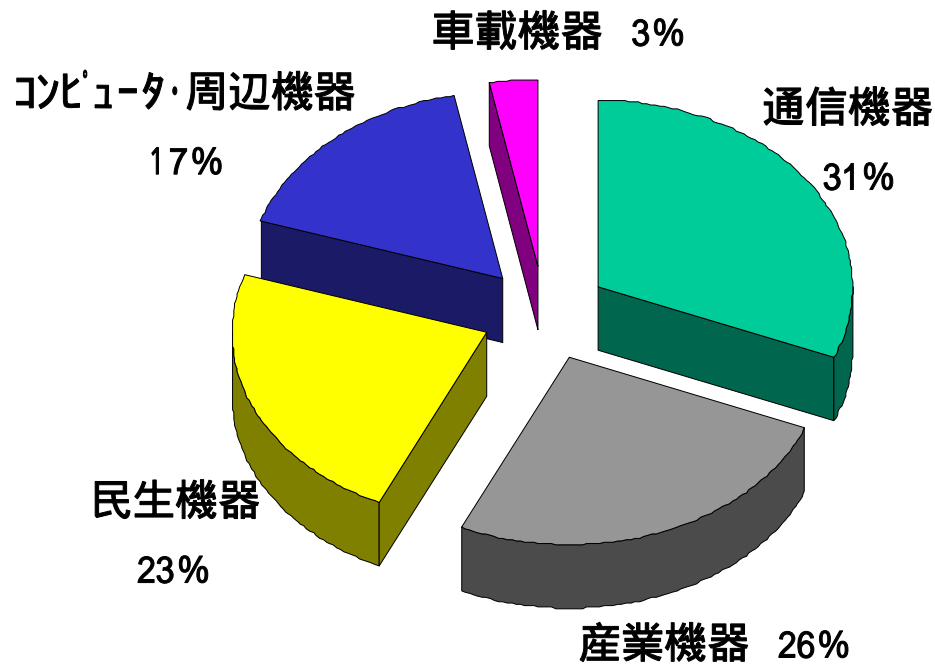
## 3. 事業内容

ネットワーク機器、ストレージ周辺機器の仕入・販売、保守

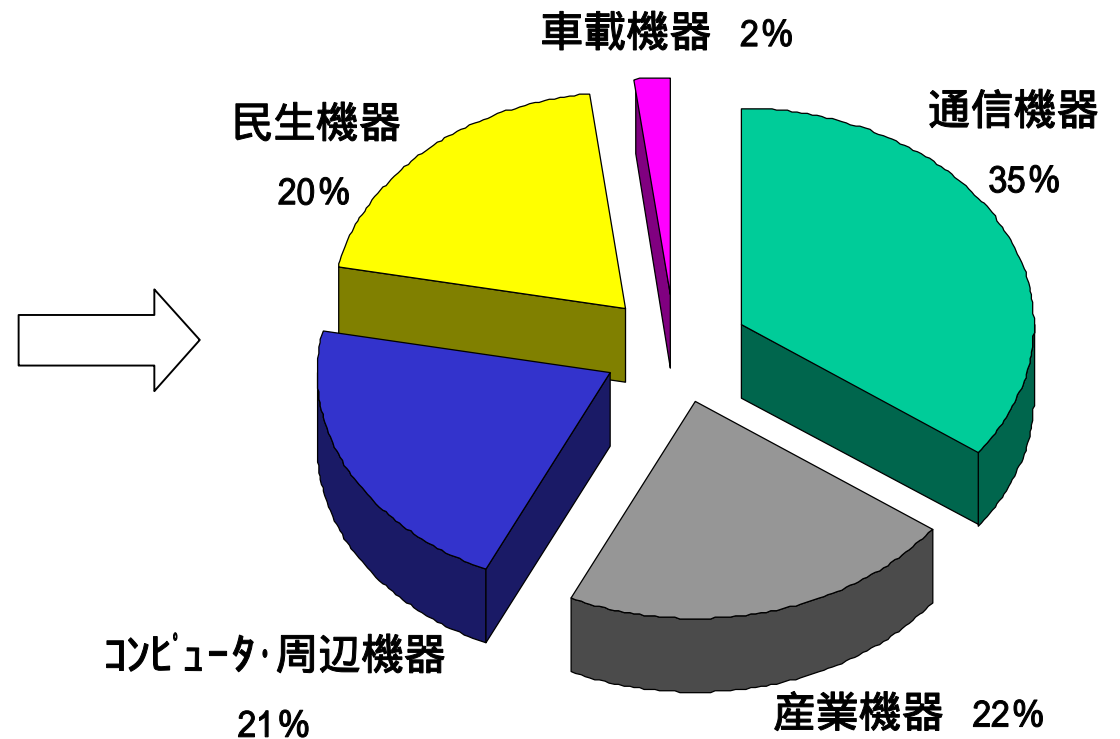
# 承継後の当社の事業領域

## 2006年3月期 用途別売上構成比較

< 当社連結 >



< コンピュータ・ネットワーク事業合算 >



## 品目別仕入先名

	品目	主な仕入先名
半導体製品	カスタムIC	富士通(株)、ザ・リンクス社
	汎用IC	リニアテクノロジー社、オン・セミコンダクタ社、TI社
	メモリーIC	AMD社、富士通(株)、IDT社、ラムトロンインターナショナル社
	専用IC	インフィニオン社、富士フイルムマイクロデバイス(株)、フリースケール・セミコンダクタ社、ピクセルワークス社、ザ・リンク・セミコンダクター社、インビーム
	CPU	AMD社、フリースケール・セミコンダクタ社、富士通(株)、TI社
	光学部品	アバゴ・テクノロジー社、ユーティナデバイス(株)
	個別素子	オン・セミコンダクタ社
ボード製品		インテル社/ダイアロジック製品、インビーム
ソフトウェア		マイクロソフト社
一般電子部品		コーセル(株)、(株)デジタル

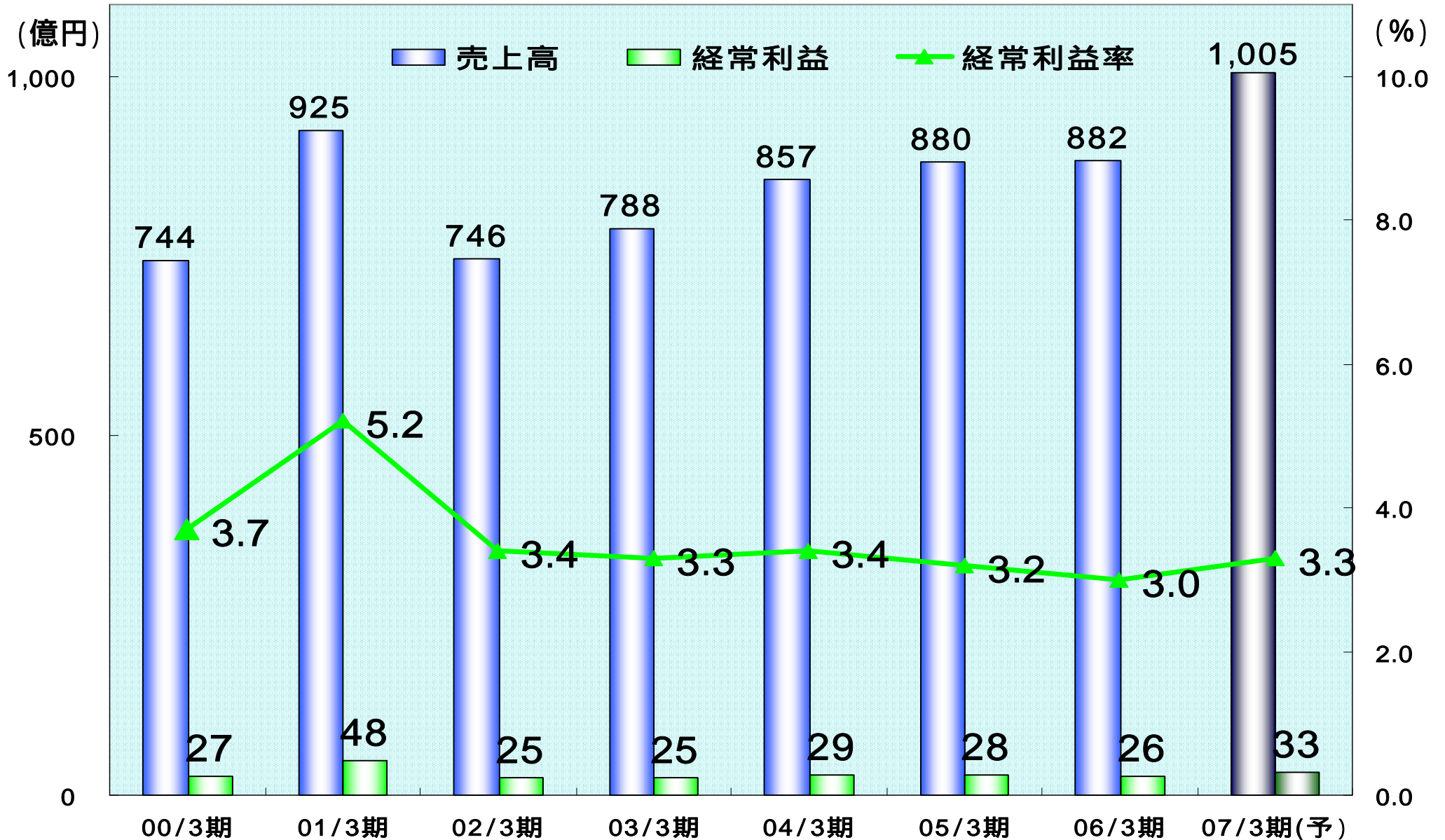
## 用語説明(1)

半導体製品	主な取扱商品	機能
カスタムIC	ASIC(富士通株) PLD(サイリンクス社)	お客様の仕様に応じて作られる固有IC
汎用IC	汎用リニアIC(アナログIC) 汎用ロジックIC	色々な用途に共通に使用されるIC
メモリIC	DRAM、SRAM フラッシュメモリ	記憶用IC、書込み、読出しが可能なものや 読出しのみのものがある
専用IC	画像処理用IC 通信用・ネットワーク用IC	特定用途用に作られた専用IC
CPU	マイクロプロセッサ、DSP	演算機能、電子機器の頭脳
光学部品	発光ダイオード、フォトカプラ	電気を光に変換して使用するIC
個別素子	整流素子、トランジスタ	増幅、整流などの機能を持つ部品

## 用語説明(2)

ボード製品		プリント配線基板の上にIC、電源、コネクタなどの部品を実装した製品
ソフトウェア		マイクロソフト社の産業機器に組み込まれるOSを中心に販売(PC用以外)
一般電子部品		機器間を接続するコネクタやケーブル、液晶表示部品、電源など、電子機器には不可欠な周辺部品

# 業績推移・計画





# 資料取扱い上の注意

このプレゼンテーションで述べられている将来の当社事業に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに構築されたものです。

当社の参画するエレクトロニクス業界は変化のスピードが大変速く、また、世界経済、半導体市況など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、今後当社の業績見通しが本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおきください。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。